

# ゲージのないウロボロスのな広がりをもつ新バブル宇宙論

藪根一正

トーラスクラウド研究所

ヒトが詳細に思い描いているものほど、精細なプラチナパターン<sup>1)</sup>が現れ、そうでないものはぼんやりとしたプラチナパターンがあらわれている。たとえば、遠くにあって生活にほとんど関係のない月のプラチナパターンはぼんやりとしているが、身近な指のプラチナパターンは精細である。このように対象物にあらわれるプラチナパターンは、ヒトの意識によって、どんどん緻密になったり、また逆に粗になったりするなど、絶対的なゲージの基準がない。望遠鏡で観察する宇宙の中にも、顕微鏡で観察する小さな細胞の中にも同じパターンが認められるなど、ゲージに最小値も最大値もないウロボロスのような世界に私たちは住んでいるのかもしれない。

ヒトが何かを思い描くとき、そのヒトが必要とする **Energy X**<sup>1)</sup>が集められ、そこに必要な磁場が形成され、そのヒトのバブル宇宙が形成されると思われる。そして、綿密な思考には **Energy X** が多く集まり、磁場が強く、濃密なパターンが形成され、それだけ複雑な三次元へのインターフェイスが可能になるとと思われる。

そのバブル宇宙の構造はいたるところにみられる超循環型のトーラス構造になっている可能性があり、さらに人々が共通の体験をすることで、バブル宇宙の重なり合いが共有されるとと思われる。また、異なる状況においては、バブル宇宙が他のバブル宇宙を内包したり、逆に外から包まれたり、また独立したりするものと思われる。

そして絶対的なゲージの基準が存在しない代わりに確実に存在するのが、空間に存在しようとする私たちの純粋な思いと、その思いを三次元空間にインターフェイスさせるために必要な **Energy X** と、そのエネルギーの振動が生み出す磁場になるとと思われる。粒子ではなく、その磁場が最初の質量を生み出している可能性がある。

まさしく、この三次元世界は、宇宙のあるプレーンに **Energy X** と磁場によって描かれたホログラムのようであり、ホログラフィック宇宙論を再確認する思いである。

---

Email: [yabune\\_kazumasa@toruscloud.com](mailto:yabune_kazumasa@toruscloud.com)

〒540-0012 大阪市中央区谷町 1-3-11-503

トーラスクラウド研究所

ホームページ : <http://toruscloud.com/>

私たちが体験したこれらの報告書<sup>1)2)3)</sup>に記載した観察記録の経過は、この現象を日毎に詳細に記録することに成功するなど、この仮説を裏付けるものになるのかもしれない。

この仮説が正しいと仮定すると、この一連の報告書<sup>1)2)3)</sup>を読まれた皆様も、私たちが体験するバブル宇宙を共有することになり、私たちが撮影するのと同じように、写真を撮るたびに、プラチナパターンや **Energy X** が写真に写りこんでいくことになる。そして皆様が記録されるこれらの映像は、日々、そして場合によっては秒単位で、緻密になってゆくことになる。

おそらく、より詳細な情報を求めて撮影する皆様の意識が **Energy X** をますます増大させ、それだけ強力な磁場を発生させると思われる。その磁場の振動が生み出す物質化の結果、得られる情報がますます緻密になってくる可能性を考える。

さらに、**Energy X** のエントロピーが著しく増大することで、発生する磁場が無限に大きくなり、私たちが発見した **Hole X**<sup>2)</sup>あるいは、ブラックホールやワームホールと呼ばれるものが形成されるかもしれない。すると、リサ・ランドール博士の提唱される3次元ブレーン<sup>4)</sup>と高次元時空との相互作用も影響をうけ、いわゆるワープができるようになる可能性がある。

現在、ダークマター・ダークエネルギー・ヒッグス素子などを追求する研究においては、自然界には存在しない粒子の衝突現象や巨大な望遠鏡などを用いているが、ダークマターやダークエネルギーは宇宙のほとんどを占めていて、本来どこにでもあるはずのものであり、もっと身近に自然のままの「ダーク」でない姿を簡単に観測できる方法を確認していてもよい時期にきているのではないかと考える。

#### 参考資料

- 1) ATLAS のデータと当研究所のデータの比較 (2)・・・**Energy X** の発見  
[http://toruscloud.com/document/T.C.I.report\\_0003.pdf](http://toruscloud.com/document/T.C.I.report_0003.pdf)
- 2) ネットワーク X とホール X の発見  
[http://toruscloud.com/document/T.C.I.report\\_0001.pdf](http://toruscloud.com/document/T.C.I.report_0001.pdf)
- 3) Comparison between the results of ATLAS and those of our institute (1)  
[http://toruscloud.com/document/T.C.I.report\\_0002.pdf](http://toruscloud.com/document/T.C.I.report_0002.pdf)
- 4) リサ・ランドール,ワープする宇宙, 2007 年